

役 員

(平成6年6月1日)

| 役職名 | 氏 名 | 略 歴 |
|---------|-----------|---------------------------------|
| 理 事 長 | 細 川 巖 | 理学博士 福岡教育大学名誉教授 |
| 副 理 事 長 | 高 島 良 正 | 理学博士 九州大学名誉教授 |
| 常 任 理 事 | 小 林 博 之 | 前当協会総務部長 |
| 常 任 理 事 | 亀 井 吉 次 | 九州電力(株)常務取締役 |
| 常 任 理 事 | 中 西 弘 | 工学博士 山口大学工学部教授 |
| 常 任 理 事 | 花 嶋 正 孝 | 工学博士 福岡大学工学部教授 |
| 常 任 理 事 | 松 藤 泰 典 | 工学博士 九州大学工学部教授 |
| 常 任 理 事 | 持 田 勲 | 工学博士 九州大学機能物質科学研究所教授 |
| 理 事 | 浅 野 直 人 | 福岡大学法学部教授 |
| 理 事 | 有 吉 敏 彦 | 薬学博士 長崎大学薬学部教授 |
| 理 事 | 石 西 伸 | 医学博士 中村学園大学教授 九州大学名誉教授 |
| 理 事 | 江 川 博 明 | 工学博士 熊本工業大学教授 熊本大学名誉教授 |
| 理 事 | 大 嶋 文 男 | 福岡教育大学教授 |
| 理 事 | 岡 部 史 郎 | 理学博士 東海大学海洋学部教授 |
| 理 事 | 川 野 田 実 夫 | 大分大学教育学部教授 |
| 理 事 | 北 川 義 男 | 南九州大学園芸学部助教授 |
| 理 事 | 楠 田 哲 也 | 工学博士 九州大学工学部教授 |
| 理 事 | 税 所 俊 郎 | 農学博士 鹿児島大学水産学部教授 |
| 理 事 | 櫻 井 日 出 生 | 医学博士 前福岡県医師会会長 |
| 理 事 | 佐々木 實 | 工学博士 九州芸術工科大学芸術工学部教授 |
| 理 事 | 白 石 哲 | 農学博士 九州大学農学部教授 |
| 理 事 | 杉 本 正 美 | 農学博士 九州芸術工科大学芸術工学部教授 |
| 理 事 | 薛 孝 夫 | 農学博士 九州大学農学部助教授 |
| 理 事 | 野 田 道 宏 | 理学博士 佐賀女子短期大学学長 佐賀大学名誉教授 |
| 理 事 | 萩 島 哲 | 工学博士 九州大学工学部教授 |
| 理 事 | 藤 井 正 博 | 工学博士 当協会環境部長・分析科学部長・開発部長 |
| 理 事 | 古 屋 廣 高 | 工学博士 九州大学工学部教授 |
| 理 事 | 光 吉 健 次 | 工学博士 (財)福岡都市科学研究所理事 九州大学名誉教授 |
| 理 事 | 柳 勝 美 | 理学博士 九州産業大学国際文化学部教授 |
| 理 事 | 矢 幡 久 | 農学博士 九州大学熱帯農学研究センター教授 |
| 理 事 | 吉 永 俊 一 | 工学博士 九州産業大学工学部教授 |
| 監 事 | 永 野 博 生 | (株)福岡玉屋監査役 |
| 監 事 | 前 田 克 明 | (株)福岡銀行監査役 |
| 相 談 役 | 表 俊 一 郎 | 理学博士 元九州産業大学学長 前当協会理事長 |
| 相 談 役 | 竹 下 健 次 郎 | 工学博士 九州大学名誉教授 前当協会副理事長 |
| 顧 問 | 塚 原 博 | 農学博士 (財)福岡県筑前沿岸漁業振興会会長 九州大学名誉教授 |
| 顧 問 | 白 石 直 典 | 工学博士 前当協会理事 |
| 顧 問 | 古 海 輝 雄 | 弁護士 古海法律事務所 |

編集後記

わが国では、1980年代にアメニティ整備の必要性が強調され、研究、行政機関で様々な研究、事業が行われた。本「環境管理」でもNo17, 1988で特集「都市のアメニティ」を組み、諸問題の検討や事例紹介を行った。その後もアメニティに関する研究、事業は進み、当初より広い分野において、また異なる観点からアメニティの追求がなされてきた。その一つの現われが、1993年5月に九州芸術工科大学で行われた「国際シンポジウム'93, アメニティのデザイン」であろう。従来の環境行政、都市計画行政のワクを超え、人間生活のほとんどすべての領域でアメニティを身ぢかにデザインするための議論が活発に行われたが、その内容は分かり易く、極めて意義深いものであった。本特集でも、その流れの中で、アメニティを考えようとしたものである。専門の異なる多くの先生方から玉稿を賜わったが、いずれも人の心と教育の大切さ、そして環境と人とのやさしいつき合い方が平易に述べられている。今後、この視点からアメニティのあり方の見直しが必要とされるであろう。

(白石, 古賀)



財団法人 九州環境管理協会会報「環境管理」第23号

平成6年8月1日

発行者 小林 博之

発行所 (財)九州環境管理協会

〒813 福岡市東区松香台1丁目10-1

☎代表 (092) 662-0410

印刷所 コロニ印刷



新排水基準分析対応



ヘッドスペースGC/MSシステム

平成 5 年 3 月、公害対策基本法(現 環境基本法)に基づく「水質環境基準」が改正され項目の追加等が行われました。これに伴い、12月6日に中央環境審議会より「新しい排水基準と地下浸透水の規制」について答申がなされました。この答申を受けて、平成 5 年12月27日に、「水質汚濁防止法に基

づく排水基準の改正」が公布され、平成 6 年 2 月 1 日から施行されることになりました。この中では水中の揮発性物質の分析が新たに追加されており、前処理としてヘッドスペース、検出器としては質量検出器が目まされています。

HPのヘッドスペースGC/MSシステムはここが違います。

●EPC(エレクトロニックプレッシャコントロール)を用いたキャリアガスのコントロール

EPCを用いればカラムの分離能を最大限に活かせるコンスタントフローモードで測定を行うことができます。

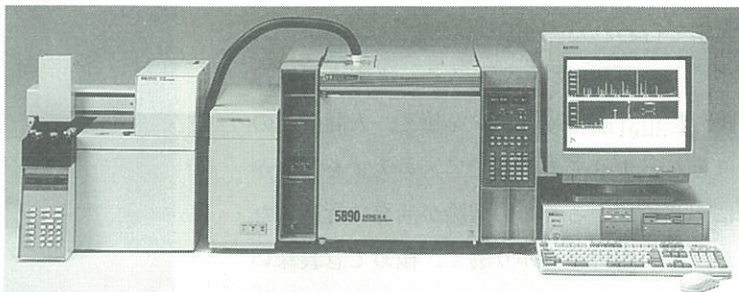
●EPCによるヘッドスペースのサンプリング

EPCを用いてヘッドスペースのバイアルを加圧すれば、サンプル間、測定者間のバラツキをなくし、再現性のよいデータを採取できます。

●EPCを用いたスプリット比の設定
注入時のスプリット比をEPCでコントロールできるので、正確で再現性のよい注入を行うことができます。

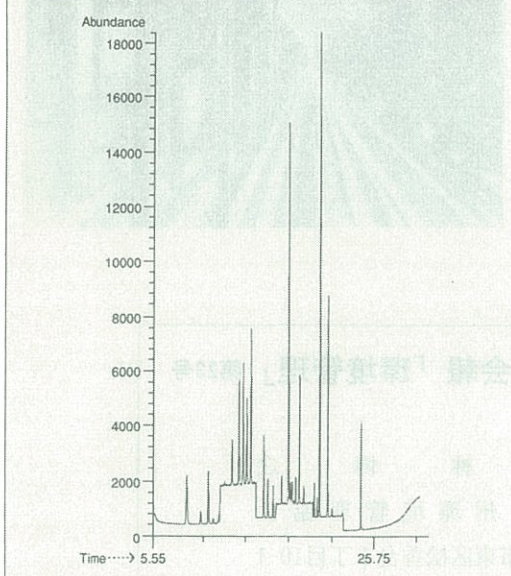
●pptからppmまでの広いダイナミックレンジ

環境分析では何といても、低濃度から高濃度までの広い範囲を分析しなければなりません。HPのシステムを用いれば、4桁以上の濃度範囲でも直線性を示します。

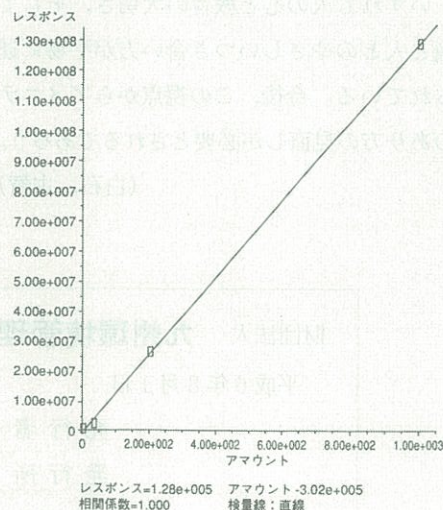


EPC付ヘッドスペースサンブラHP7694 + EPC付GC/MS + ワークステーション

標準200pptでのトータルイオンクロマトグラム



200pptから1ppmまでの検量線



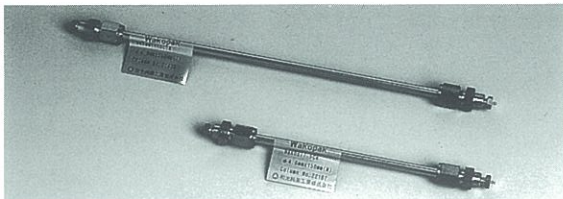
SHINKAWA
新川電機株式会社

九州支社
福岡市博多区博多駅南2丁目11-12 〒812 電話(092)451-1747
東京本社/東京都千代田区麹町4-3-3 新麹町ビル3F 〒102 電話(03)3263-4411#
広島本社/広島市中区三川町10-9 〒730 電話(082)247-4211#



HPLC用パックドカラム

Wakopak-Wakosil Series



Wakosil-II5C18HG → 高性能ODS充てん剤

金属含有量の少ない高純度シリカゲルを原料として、ODS化後、完全エンドキャッピング処理をした充てん剤です。塩基性物質や金属配位化合物の分析に適しています。

Wakosil-II5C18AR → 耐酸性ODS充てん剤

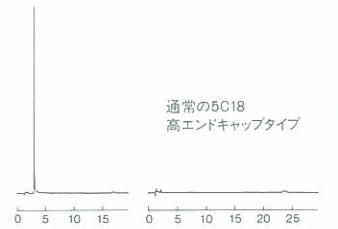
金属含有量の少ない高純度シリカゲルを原料として、三反応型オクタデシル基結合後、完全エンドキャッピング処理をした充てん剤です。耐酸性だけでなく耐アルカリ性も向上しています。モノメリックODS充てん剤とは多少分離特性が異なります。

(2タイプとも高分離用充てん剤(3 μ m)もご用意しております。)

シリカゲル中の金属の影響

ヒノキチオール分析 (分析条件)

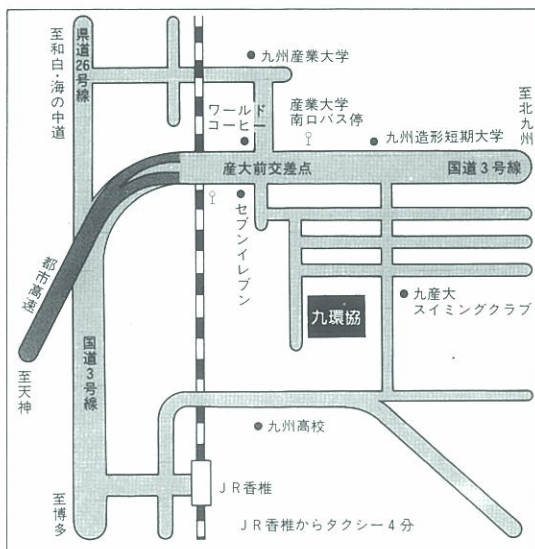
Column : Wakosil-II 5C18HG, 4.6 ϕ * 150mm
Eluent : Acetonitrile/H₂O=60/40(v/v)
added 0.05% EDTA 2Na
Flow rate : 1.0ml/min. at 35°C
Detection : UV 254nm
Sample : Hinokitiol 0.11mg/ml, 6 μ l inject.



* 資料をご請求下さい。

和光純薬工業株式会社

本社 大阪府中央区道修町三丁目1番2号
〒541 電話 大阪 (06) 203-3741 (代表)
東京支店 東京都中央区日本橋本町四丁目5番13号
〒103 電話 東京 (03) 3270-8571 (代表)
出張所 福岡・広島・名古屋・横浜・大宮・筑波・仙台・札幌



ECOLOGY COMMUNICATION

地球をやさしく見つめる

財団法人 九環協

〒813 福岡市東区松香台1丁目10番1号
☎(092)662-0410(代表)
FAX(092)662-0411

